

愛知メッセージ

21世紀最初の国際博覧会である愛知万博は、「自然の叡智」のテーマの下、地球上の総ての「いのち」の持続可能な共生を求めて、ここ愛知の地で開催されました。われわれ人類が、あらゆる「いのち」を尊重しながら地球市民としての自覚をもって生きることの責任の重さに深く思いを致し、かみしめる半年間であります。

そして、この博覧会は、120を超える国や国際機関の参加を得た広範な国際交流、一人ひとりが自ら考え、広く連帯し、行動する自立した市民の活躍、未来の夢を語る最先端技術の提示など大きな成果を残して、いまその幕を閉じようとしています。

国際博覧会の歴史は約150年に及びますが、それは各時代において次の時代のビジョンを映し出す大きな鏡としての役割を果たすとともに、開催地にとっては、地域創造の新たな第一歩を印すものであります。

われわれ万博開催都市・地域連盟(AVE)は、BIEの協力のもと、本日のシンポジウムを通じて、国際博覧会だからこそ果たしうる大きな役割、すなわち、地球的課題の解決に向けて、世界中から参加した人々により対話と交流が行われ、その成果が強烈なインパクトをもって広く普及啓発される場としての重要性を共有することが出来ました。また、博覧会開催の成果をその後の地域創造へ活かす努力を継続することの必要性についても、認識を新たにいたしました。

これから国際博覧会を開催しようとしている都市・地域が、国際博覧会の有する文明史的意義はもとより、これまで多くの開催都市・地域が万博の開催を契機として行ってきた街づくりや社会インフラの整備、国際交流や文化芸術の振興等のハード・ソフト両面にわたる地域づくりの歴史に大いに学び、その成果を継承・発展させていかれることを希望してやみません。

われわれは、愛知万博の開催が国際社会と開催地域に与えた成果の大きさに誇りを持っております。特に、地球環境の課題に真正面から取り組んだこと、さらに、かつてない規模での多様な市民参加を実現したことは、国際博覧会の歴史を画するもので、21世紀における国際博覧会のモデルとしての意義を有するものと確信しています。この成果がこれから開催される国際博覧会に引き継がれることを希望するとともに、万博開催都市・地域それぞれの新たな地域創造に活かすことをここに誓うものであります。

2005年9月22日

万博開催都市・地域連盟(AVE) 第2回連盟会議 議長

愛知県知事 神田真秋